



《19名の盛会だった花見会 報告》

日時：4月2日（土）午後3：00～

会場：会場：「わかばやし別館」（幸町）

4月2日 15：00 より犀川桜橋付近「わかばやし別館」にて花見会を開催しました。2020年新年会以来のイベント実施でした。

参加者です。山田/不破/蛭子/中田俊/佐藤/大坪（講演のみ）/吉田/紐野/中城/寺元/松岡/朝日/小幡/中浦/谷/堀野/松下/森川/稲原、計 19 名。そして越前龍馬会前田会長が遠路はるばる参集されました。

15:00 より犀川河畔を散策しました。桜は3分咲きでしたが快晴で遠くの山並みもはっきり見て取れ、寒いとはいえ気持ちのよい日和でした。

会場へ戻り松岡氏講演「天狗党」を拝聴しました。天狗党を生んだ水戸藩の説明、天狗党が生まれた背景、自分たちへの理解者であると思われる徳川慶喜のいる京都を目指したこと、行軍の様子と通過点各藩の対応、加賀藩の部隊へ投降し敦賀の寺へ収容、と時間の関係でここ迄の話でした。

引き続き懇親会を開催し、久しぶりに参加者の近況が報告されました。楽しいひと時はあっという間に過ぎ楽しい宴は無事に終了しました。



《全国龍馬社中近畿北陸ブロック大会 兼 北陸三県龍馬会交流会》

日時：7月9日（土） 15:00～19:00

場所：金沢駅前「ANA クラウンプラザホテル金沢」
ブロック大会

15:00～16:00 講演会 坂本家 10代目
坂本匡弘氏

16:00～17:00 演題「龍馬亡き後の坂本家」
太鼓演奏 ダイアプラス 10～15分間

懇親会： その後～19:00

参加費： ￥7,000円（飲み放題）

（実際は 8,000円/人ですが、
千円分は金沢龍馬会が負担します）

（コロナ防止策を講じスペースに余裕を持たせて
おります）

エクスカーション： 7月10日（日）

兼六園、金沢城址、ひがし茶屋街、長町武家屋敷跡

《特報》

全国大会 第34回龍馬 World in 旭川

前夜祭：9月17日（土）旭川トーヨーホテル2階

参加費： ￥9千円

本大会：9月18日（日）12:30

旭川市公会堂 無料

交流会：9月18日（日）17:00

アートホテル旭川 1万円

エクスカーション：9月19日（月）敬老の日

（チラシ参照）

まるわかり「龍馬入門講座」⑬

福沢諭吉

長崎の眼鏡橋がある中島川のほとりに真宗大谷派の大名刹「光永寺」がある。ここは二つのことで有名である。

一つは維新以降最初の県議会会場となった。他一つは幕末に豊前（大分）中津から勉学のために遊学してきた福沢諭吉の下宿先であった。

志士とは言えないが福沢諭吉はご存知のように慶応義塾大学の創始者である。街から戦火の音がしても学生に「勉強しろ」と要求した。しかし幕末・維新以降、社会に対し多大な意識改革を促した功績は大である。

一方の雄である早稲田大学の前身は長崎にあった佐賀藩開設の英語学校である。大隈重信はその責任者であった。片や諭吉は一見長崎と関係ないように見えるが、実は長崎で勉強をした。しかもつらい思い出もあるようである。

諭吉は中津藩大坂屋敷にて生を受けた。父の死後、中津に帰藩した。身分の低い家柄であったため子供時代の遊びにも門閥が付いて回り中津から離れたかった。遅めの年齢から勉学を始めたが利発であり代表的な漢籍を読破し漢学者の前座程度は勤まるようになった。

ペリー来航の翌年、彼が19歳の時、蘭学学習のため長崎へやってきた。光永寺が宿舎であったが、ここに中津藩家老子弟の奥平杏岐がいた。彼は嫉妬深く諭吉に意地悪をしたと云われる。

日本近代砲術の基礎を築いた高島秋帆の門下生である山本物次郎の家に食客として入り込んだ。山本家は所蔵していた西洋式砲術や兵学の書籍を貸し出し写本させ収入を得ていた。諭吉が各藩からの客の対応を行ったため、かなりの知識を得ることとなった。客の中には大村益次郎などもいた。

一年が過ぎたころ奥平杏岐との関係が悪くなり中津藩から帰藩するよう指示されたが、帰る気がなく、江戸へ行く途中寄った大坂で緒方洪庵の彼の有名な適塾に入った。紆余曲折があるがオランダ語や技術を学び22歳で適塾の塾頭となった。

その後、藩の命令で江戸に出て蘭学を教えた。この「一家塾」が慶義塾大学の基礎となった。しかし横浜の外人居留地へ行きオランダ語を使ったが、そこでオランダ語がマイナーな言葉だと知りショックを受け英語学習を決意する。

その後の彼の活動は有名である。安政7年(1860年)成臨丸で勝海舟やジョン万次郎と一緒に合衆国を訪れる。帰国後中津藩籍のまま幕府外国方に採用される。文久元年(1861年)文久遣欧使節の翻訳方として訪欧団に加わり、フランス・イギリス・オランダ・ロシア・ポルトガルを訪れる。帰国後「西洋事情」を書いた。慶応3年に再びアメリカへ。

明治維新となり新政府からの出仕を断り、蘭学塾を慶應義塾と改名した。官軍と彰義隊が戦っているため塾生は浮ついた。それでも、講義を行った。曰く、その要旨は「昔オランダはナポレオンのために本国と植民地を失った。しかし長崎の出島だけにオランダの国旗が翻っていた。

この塾は日本の洋学のためにありオランダの出島と同様、世の中にいかなる騒動や変乱があっても、洋学の命脈を絶やしたことはない。慶應義塾は一日も休業したことはない。この塾のある限り大日本は世界の文明国である」と。

著書は数多くあるが、中でも「学問のすすめ」が代表作で、東洋的なものを批判し、西洋文明を啓発した。この時代には抵抗勢力が多く民衆も旧習にとらわれることが多かったため時代が要求する思想であったろう。

青年期に中津から長崎へ来て、西洋の事物・思想に接し、その後、大坂・江戸・アメリカ・欧州と幅を広

げ、維新後は役人や政治家とならず、青年を教育し社会を啓蒙した人生であった。

なお奥平杏岐とは和解し共に思想啓蒙のために邁進した。勝海舟とはそりが合わず終生不仲であった。

参考資料：長崎新聞 Wikipedia



石碑に「福沢先生使用之井」とある。
福沢諭吉が使用した井戸（長崎市出来大工町）

会員 127番 稲原 順二さん

●年会費納入のお願い

令和4年4月から来年3月迄の年会費：
¥3,000-

例会ご出席の折か次の口座まで送金下さい。

郵便局 口座No 00780-5-38627

口座名義 金沢龍馬会

振込手数料は龍馬会が負担。3千円のみです。

【編集後記】

皆さま、今年も宜しくお願いします。心の中に常“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も第32号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

***** 事務局*****

金沢龍馬会

会長：蛭子政喜

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muji.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>

